東和地域支援室通信

令和４年12月号

東和総合支所地域振興課地域支援室 ： 東和町土沢8区60　電話 41－6514（直通）

第１回東和サロン「成島和紙を使ったカードケース作り」を開催しました

１１月２１日（月）東和コミュニティセンターにて、成島和紙工芸館の青木テイさんと地域おこし協力隊の赤津有美さんのお二人による「成島和紙を使ったカードケース作り」を開催し、多数のご参加をいただきました。あらかじめ切って準備された成島和紙のパーツを組み合わせていく作業でしたが、外側・内側の和紙パーツをそれぞれ型紙に沿って折る、芯となる和紙と貼り合わせる、和紙を折り畳んで段にして内側のポケットを作るなど複雑な工程に参加者の皆さんも四苦八苦…。しかしその甲斐あって思い入れのあるカードケースになったのではないかと思います。そしてやはり成島和紙は頑丈だと感じました。最後に福島県会津市の伝統工芸・会津型を使い、完成したカードケースにワンポイントを刷りました。当日は駆け足での作業となってしまったので、次回は会津型刷り体験をメインにした講座を検討しています。どうぞお楽しみに！

第３回歴史学習 田瀬地区バスツアーを開催しました

１１月２２日（火）、第３回歴史学習として田瀬地区バスツアーを開催しました。
今回も晴天のもと、時折り晩秋の田瀬湖を望みながら、元部　田瀬・十文字の道しるべ、小倉・堂地前の道しるべ、中通　佐々木家の山の神社、田瀬・薬師堂、覚間沢・金精様を巡りました。東和の歴史と文化財を学ぶ会と地域の方々のご協力により、見学先は見やすく整備され、安全に歩くことができました。令和４年度より開始した本バスツアーは多数のご参加をいただき、大変満足度の高い講座となりました。ありがとうございました。

花巻市民芸術祭第１６回文芸大会で東和町俳句協会が表彰されました

１１月１２日（土）に生涯学園都市会館で表彰式が開催された令和４年度花巻市民芸術祭第１６回文芸大会俳句部門において、東和町俳句協会の皆さんが多数の賞を受賞しました。

佐々木みき子選　特選　多田ゆう湖（多田聰子）さん
畠山濁水選　　特選　多田ゆう湖（多田聰子）さん
安部克詠選　　特選　熊谷森子（熊谷敏子）さん

これにより、団体賞を東和町俳句協会が、芸術祭賞を多田ゆう湖（多田聰子）さんが受賞しました。
おめでとうございます。

連載企画

イージューはなまきの「もっとローカル！」 vol. 7

移住者へのインタビュー ⑥

元地域おこし協力隊の岡田芳美さんによる連載企画。『イージューはなまき』はUターンの芳美さんとＩターンの旦那さんが発起人となり立ち上げた移住者のためのプロジェクトです。『イージュー』は“移住”と“いい住まい”の意味。さらに奥田民生さんの「イージュー★ライダー」へのオマージュを込めているそうです。

こんにちは！ イージューはなまきの岡田です。 今回は同じ名字の方ですが、親戚ではありません（笑）
東和町東晴山にお住まいで、今年４月に移住・ご結婚された岡田さんご夫婦にお話をお聞きしました。

.+. ☆.+. ☆.+.☆.+.☆★ インタビュー 第６弾　岡田早希さん・悠作さん ★☆.+.☆.+.☆.+.☆ .+. ☆ .+.

▼移住のきっかけ…

宮城県の加美町（かみまち）で出会ったお二人。加美町出身の悠作さんは映画作家を、東和町出身の早希さんは加美町の自然派な保育園に勤めていました。ただ、早希さんはご実家もご両親も東和も晴山も大好きで、ずっと戻りたいと考えていたそう。お二人で話し合い、悠作さんが早希さんの想いを受け入れる形で移住を決めました。

▼移住して半年…

悠作さん「移住直後はとにかく必死で覚えていませんが、義両親をはじめ皆さん歓迎してくださって。花巻ならではの歴史文化も興味深いです」

早希さん「小さい頃はもう晴山一帯が遊び場で！ 原体験がよみがえる…一気に取り戻している感覚です。その頃と違うのは、車でどこにでも行けるし、７年離れていたこともあり改めて知ることも多く、今、とても楽しいです！ そしてやっぱり“晴山”が好きです！ 」

▼そしてこれから…

現在「あそびばnekko」として、月１回程度、親子の遊び場・居場所・コミュニティ作りに取り組まれています。これから花巻・東和に根づいた活動になっていくのが楽しみです♪

「あそびばnekko」についてはこちらからどうぞ ⇒

あそびばnekkoでのお二人
（イラスト：地域支援室伊藤）

新聞配達されている早希さんを見かけたらぜひ声をかけてみてくださいね！

イージューはなまきWEBでは、岡田さんご夫婦のインタビュー全文がお読みいただけます。

こちらからどうぞ ⇒

東和の生き物12か月

野鳥(サシバ)の研究で修士課程を修了した地域支援室 糸川拓真主査が東和地域で観察できる生き物について解説します。

１２月　ジョウビタキ　冬を彩る小さな歌い手

東和の町も１２月。早くも年の瀬を迎えます。加速度的に冬が深まり、凍てつく日も増えてきました。山々の木の葉も軒並み落ち、寒々しい風景が広がっていると思います。そんな寂しささえ感じる時期ですが、水辺や林、住宅地など様々な場所で色とりどり冬鳥が活動しており、視点を変えてみると賑やかな側面が垣間見えてきます。

今回は、冬の東和で時折澄んだ綺麗な声で鳴くジョウビタキという小鳥の紹介をしたいと思います。

ジョウビタキは、全長約13cmとスズメと比べると少し小さく細身に見える小鳥です。オスの体色は、頭が銀色、目から上半身は光沢のある黒色で、羽には和服の紋を思わせるワンポイントの白色、お腹は明るいオレンジ色と、とても鮮やかな色彩をしております。メスは、全体的に褐色で目立たない色をしておりますが、尾の周りのオレンジ色が見えれば識別が可能です。

ジョウビタキは冬鳥で、中国北部やロシアなど北方で繁殖をし、冬になると越冬のため日本に訪れます。日本では主に単独行動をしており、人をそんなに怖がらずたまに庭先に現れる個体もいるようです。越冬地での主なエサは小型の昆虫やクモなど。困難な場合は、木の実などを食べ厳しい冬を過ごします。

ジョウビタキという名前の由来は、この鳥の特徴から取られています。まず「ジョウ」という部分は、オスの頭部の銀色が、男性の銀髪を連想させることから古来の高齢の男性を指す「尉」という言葉が由来であるという説があります。

また、ジョウビタキの声も特徴的で「ヒッヒッ」「キッキッ」という高く綺麗な声で鳴く他に「カッカッ」という石を打つような鳴き声も発します。この「カッカッ」という声が、火打石で火焚きをする光景を連想させることから、「尉」「火焚き」でジョウビタキとなった、と言われております。

ジョウビタキは、縄張り意識が強く自分のテリトリーを主張するため、尾羽を上下しながら頭を下げるお辞儀のようなユニークなしぐさをすることもあります。場所によっては「モンツキドリ」と呼ばれることもあり、瀬戸内地方では、母の死に際に紋付の服を着て行ったため遅れてしまい父から勘当されたジョウビタキが、父に許しを請うため今でも謝り続けているという、姿やしぐさにまつわる昔話が存在しているようです。

綺麗な姿と鳴き声、そして特徴のあるしぐさで冬を彩るジョウビタキ。見つけた際はぜひゆっくり観察して親しんでみてください。

絵：地域支援室伊藤
（ボールペン画）